

平成 30 年度第 2 回白馬村子ども・子育て会議 会議録		
日時	平成 30 年 10 月 23 日 (火) 開会 午後 1 時 30 分 閉会 午後 2 時 30 分	
場所	ふれあいセンター2 階 学習室	
委 員		
白馬村教育委員会教育長職務代理	幅下守	出
しろま保育園長	松澤ひとみ	出
白馬村子育て支援ルーム長	太田昭子	出
民生児童委員協議会主任児童委員	岩井良三	出
白馬村放課後児童クラブ指導員	中村直美	出
白馬北小学校長	木下政道	出
白馬南小学校長	倉科浩美	出
白馬幼稚園長	中村豊	出
公募委員	丸山智彦	出
白馬幼稚園 P T A 会長	中澤小百合	出
白馬幼稚園 P T A 副会長	原田綾	出
白馬幼稚園 P T A 役員	中村文子	出
しろま保育園保護者会長	石山麻衣子	出
しろま保育園保護者会役員	宮澤咲子	出
しろま保育園保護者会役員	竹尾里枝	出
事 務 局		
子育て支援課長	田中克俊	出
子育て支援係長	松澤拓哉	出
子育て支援課主査	田中元気	出

1. 開会

田中課長が開会を宣言

2. 幅下会長あいさつ

平成 31 年度からの子ども子育て支援事業計画を策定するにあたり、前回から審議を進めている。第 2 回目という事で具体的に村民の意向を調査するアンケートの内容の決定が中心になる。

3. 協議事項

(1) 白馬村第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート調査について

事務局から資料1に基づき、第2期白馬村子ども・子育て支援事業計画策定に必要なアンケート調査について説明。

会長：事務局からの説明について質問、意見はあるか。

委員：このアンケートの内容は何かを参考に作ったものか。

事務局：前回のアンケート調査時に国から基本的なものが示されている。

委員：認定こども園の項目があるが、白馬村に無いものがあるか。

事務局：前回の物はほぼ国から示されたものをそのまま利用していたが、今回アンケートを行うに際し、見直しを行い、必要のない項目は削除並びに具体的な白馬村の事業に合わせている。認定こども園についても検討した、大町市に認定こども園があるため、記載した。白馬版のアンケート調査としている。

会長：特に意見がなければこの内容でアンケートを行ってよいか。

委員：異議なし

(2) 子育て支援事業の他自治体との比較について

事務局から資料2に基づき、説明。

会長：事務局からの説明について質問、意見はあるか。

委員：比較した自治体は「市」であるか。

事務局：県内の比較的子育てに力を入れている「市」である。

委員：白馬村で行っていない事業で、どうしてもやらなければならない事業はあるのか。

事務局：どうしてもやらなければいけない事業はすでに実施している。市町村によって住民ニーズも違って来る。来年度の予算要求の時期なので実施してほしい事業などがあれば、意見をいただきたい。

委員：個人の意見としては、白馬村の規模であれば、今行っている事業で十分だと思う。

委員：他の自治体では母乳相談等助成事業を行っているが、自分自身は全く母乳が出なかったため、ミルクで育てた。そういった母親はこういったサービスがあっても全く意味がない。このようなサービスを始めるのであれば、母乳が出る保護者と同じように

出ない保護者には、ミルクを買うための助成を行ってほしい。

委員：宿泊型、訪問型産後ケア事業とあるが、これはどういった事業か。

事務局：今年度から始まった事業で、池田町にある助産院を利用できる事業となっている。

委員：白馬村でできていない事業の中に、児童館や放課後子どもの居場所づくり事業があるが、図書館検討委員会でも、保育園の保護者向けにアンケートを行ったところ、公園や、雨天時に遊べる場所がないという意見がほとんどであった。子どもたちが遊びに行く場所がなく、保護者も困っている。こういった事業をぜひ積極的に行ってほしい。

委員：子どもが年長になっていて子育ての一番大変な時期は過ぎてしまっているが、こうやって白馬村で行っている事業が並んでいても、知らなかったものが非常に多い。新しい事業を増やすことも重要であるが、今ある事業についての周知を徹底してほしい。

委員：先月自民党の参議院会館で、参議院議員の自見はなこ議員との勉強会に出席した。その際に白馬村の子育てについての話題があり、小児科オンラインなどの事業の話題があった。白馬村の子育て支援については、全国の村の中では非常にハイクラスだと思う。自身の経験の中では、子どもの年齢に応じてニーズが様々あるので、それぞれの年代に応じた支援ができるようにしてほしい。また、比較する対象が市であり、そのような自治体と同じような支援を行おうと思うと、予算規模もあるため、難しい部分があると思う。そういった自治体と同じような支援を目指すのであれば、子育て世代が少し負担をしてそういった事業を推進していくという考え方もなくてはいけないかもしれない。

委員：事業を新しく行うよりも、助産師や保健師を雇用することに費用を使ってもらう事も考えてほしい。

委員：母乳相談があってもいいと思うが、どんな人でもミルクを買う必要がある。ミルクについての助成があってもいいのではないか。また、雪が降った季節に子どもが遊べる場所はゲレンデしかないので、遊べる施設があってもいいと思う。

委員：自分は上の子どもが14歳で下の子どもが5歳だが、上の子どもの頃に比べると支援は手厚くなってきていると思う。しかし、そういった様々な支援があることを知らないことや、内容が難しく理解できないことが多かった。住民にも分かりやすく、伝わる周知方法を検討してほしい。

委員：妊娠中や生まれたばかりの子どもがいたときに、災害が起きた際に優先的に利用できる避難所や、ミルクの備蓄などあればいいと思う。

会長：今年県内の教育委員会を対象とした研修会で、白馬村の子育て支援について発表をした。子育て支援課、子育て世代包括支援センターの立ち上げについて報告をした。まだ立ち上がったところなので、今回のような様々な意見を反映して、より良い白馬村の子育て支援につなげたい。

委員：冬になると子どもを連れてスキー場に行くことが多い。そうなる所についていく保護者はリフト券の代金がかかってくる。せつかくこのような環境に恵まれた白馬村に住んでいるので、こういった事に関して支援をしてもいいのではないか。

4. 閉会

田中課長が閉会を宣言した。